

環境分野 政策 2 「持続可能な循環型社会の形成」

1 目指す姿

<p>資源が有効に活用された持続可能な循環型社会が実現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の発生抑制（Reduce）や再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）により資源が有効に活用されている。 ・ ごみの排出から処理までのごみ処理サイクルが安定して機能し、発生した廃棄物が適正に処理されている。 ・ 廃棄物の不法投棄や不適正な保管が未然に防がれている。 	<p>＜課題解決が進まない場合＞</p> <p>循環型社会の形成が進まず、環境への負荷が増大している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の発生抑制や再使用、ごみの分別意識が希薄になり、ごみの排出量が増加するとともに、資源化率が低下する。 ・ 人口の偏在化等に伴うごみ収集運搬効率の悪化や、ごみ焼却施設の老朽化の進行等によるごみ処理能力の低下により、廃棄物の安定した処理ができなくなる。 ・ 廃棄物の適正処理に関する意識が浸透せず、不法投棄や不適正な保管が増加する。
---	---

＜参考＞ 現状分析・社会潮流（※基本構想原案には、重視すべき項目を中心に抜粋して記載）

		好影響	悪影響
内部環境 (地域特性)	強み (+)	① ごみの減量化に向けた取組を行う市民の割合が高い(姫路市一般廃棄物処理計画：アンケート調査結果) ② 家庭系ごみの減少(姫路市一般廃棄物処理計画) ③ メディア等を活用した食品ロス啓発活動の展開 ④ 民間事業者独自の資源化システム(店頭回収や古紙回収ボックスの設置など)が活発化(姫路市一般廃棄物処理計画)	弱み (-)
外部環境 (社会潮流・分野動向・市民ニーズ)	機会 (+)	① シェアリング等の2Rビジネスモデルへの評価・確立・普及(国：第4次循環型社会形成基本計画) ② SDGs、パリ協定など持続可能な社会の形成が国際的な潮流となっている ③ マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策の推進(国：第5次環境基本計画) ④ 電子マニフェストの普及による産業廃棄物の適正処理の推進	脅威 (-)

2 目指す姿を実現するための方向性

＜参考＞現総合計画の施策[第4次実施計画の該当ページ]

- A 環境負荷を低減する資源循環の推進[P124]
- B 環境に配慮した廃棄物の適正処理[P125]

3 市民、地域、企業・団体に期待すること

※ 姫路市まちづくりと自治の条例に規定する基本原則（協働の原則）に基づき、市民、地域、企業・団体それぞれの主体にまちづくりにおける協働をお願いするもの。

（審議会において）ご意見をいただきたい事項

- 1 「目指す姿」について
- 2 「目指す姿を実現するための方向性」について
 - ＜主な検討課題＞
 - ア 廃棄物の減量化・資源化をさらに進めるには？
 - イ 食品ロスを減らすためには？
 - ウ ごみ焼却施設の整備について、住民のコンセンサスを得るためには？
 - エ 廃棄物の不法投棄や不適正な保管を減らすためには？
- 3 「市民、地域、企業・団体に期待すること」について